



# 新年の抱負



島田 榮一

最近の世相を見ると、改革の名のもとに、本来成すべきことを忘れていっているような風潮が見られる。官から民への大合唱に流されてはいけない。酔ってはいけない。今年は精査の年である。ひとつひとつ着実に前進したい。

新年、明けましておめでとうございませう。昨年9月に発足した安倍政権は「美しい国」を目指すも、現実社会は、所得格差の指標の一つである相対的貧困率（所得がその国の平均水準の半分未満に満たない人口の割合）が、アメリカに次いで2位（2000年時点OECD調査）という状況にあります。極端な格差は社会の衰退を招くことを肝に命じなければなりません。さて、玉村町は今年で町制施行50周年を迎えます。「たたえよう50年、はばたこう未来へ」の合い言葉のもと、先人達がつくり、育て、守り抜いてきた玉村町の歴史、文化を未来へと連ねることの意味を全町民で再度確認し合う一年と言えます。議会は、子ども達が希望に目を輝かせ、高齢者が安心と安らぎを覚える地域社会を目指し奮闘します。皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のあいさつといたします。



議長  
石川 眞男



筑井 あけみ

今年、町制50周年。自立とはいえ、諸課題山積。議会、執行の真価が町民からますます問われています。様々な意味で、新生玉村町の年としたいです。他に遅れることのないよう、行政サービス充実に力を入れます。

新春を迎えるにあたり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。町民の皆様には、平素より町議会に對しまして、深いご理解とご協力を賜り、心から御礼申し上げます。玉村町は、本年8月1日に町制施行50周年を迎え、「たたえよう50年、はばたこう未来へ」をスローガンに記念事業が計画されています。今まで歩んできた道のりを振り返りながら、飛躍する未来を町民の皆様とともに祝い、これからの協働のまちづくりを推進するきっかけとなる事業を期待します。新しい企画が盛り込まれた、春まつり・花火大会・ふるさとまつり・産業祭などのイベント。記念誌の発行や写真展などの文化的事業。講演会など各種団体との協働による催し。これらの事業が、50周年記念にふさわしく盛大に実施されることを望み、皆様とともに参加していきたいと思っております。



副議長  
浅見 たけし

# 新年の抱負



中里 知恵子

健康な町、安心な町、活力のある町づくりに住民の皆様  
の知恵を拝借しながら少しずつ  
具体化したい。活力のある  
中高齢者やボランティアの出  
番はないものだろうか。  
つつがない亥年であります  
ように。



三友 美恵子

今まで私たちが経験したこと  
のない、人口減少社会の到来で、  
今までと違った価値観が必要と  
なってきたと思います。今年  
は町制50周年記念の年です。  
将来をしっかりと見据えた  
まちづくりのため、町民の  
皆様の声を町政に反映でき  
るよう精進してまいります。



備前島 久仁子

新春。今年は町制50周年を迎える  
節目の年。常に行政のスリム化効  
率化、住民サービスとは何かを考  
え、文化活動・実りある教育・福  
祉・少子高齢化・環境整備に取り組  
んで参ります。「この町に生まれ育  
ち、ここに住み続けたい」と思える  
ような進歩的で夢のある町に！



斉藤 嘉和

課題が山積されている現  
在、多様化する住民の要望に  
いかに応えていくか、問われ  
ています。永遠のテーマであ  
る行財政改革に休みはありません。  
元気な町、住んでよか  
った玉村町、を実感出来るよ  
うがんばります。



町田 むねひろ

今年は町制50周年の記念すべ  
き年です。しかしながら、臨時・嘱  
託職員の問題、県央下水処理場の  
問題、地方交付税の減額等難問山  
積で、町の財政は楽観を許されま  
せん。徹底した行財政改革と「夢  
や希望の持てる明るい町」をつ  
くするため、全力を尽くします。



川端 宏和

昨年が一番印象に残った事  
柄の一字は「命」でありまし  
た。  
今年も命の尊さを考え、弱  
い者の立場に立った行動をと  
っていかうと思っております。本年  
もよろしくお願いいたします。



茂木 信義

昨年は、町にとっても議会に  
とつても大きな試練の年でし  
た。  
本年はこの試練を乗り越え、  
より成長した町にすべく努力  
し、「住んでよかった町」として  
の実感を、町民の皆様と共有で  
きるよう頑張る所存です。



関口 祝嘉

昭和の大合併により誕生し  
た玉村町も、今年で町制50周  
年を迎えます。  
諸先輩の方々が築き上げて  
くれた、緑豊かな明るく住み  
よい玉村町に感謝し、住みた  
い町、住んでよかった玉村町  
を目指します。



寺田 純子

「キッチンからの声を町政に」  
「二人を大切にあなたが主役のま  
ちづくり」をモットーに、住民  
の声の代弁者として町政に携わ  
り10年。機会を与えて下さった  
皆様に報恩感謝申し上げます。  
安全に安心して暮らせる、男女  
共同参画社会の町を目指します。



宇津木はるのぶ

「勝ち組・負け組」格差社  
会の進行はとどまるところ知  
らない。不安定雇用がワーキ  
ングプアを作り出す。若者は  
結婚もできない。日本の未来  
を危うくするものです。  
町民と心の通う町政を目指  
し、力を尽くします。



村田 安男

国の税源移譲などにより、  
地方の自由度も増しておりま  
すが、同時に個々の自治体の  
責任も増大しております。  
住民サービスを低下させる  
ことなく、少子高齢化時代に  
即応できる、活力のある町作  
りに邁進してまいります。

